

製品名: RAGE (1P3) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe16862**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	43kDa

抗原情報

遺伝子名	AGER
別名	Advanced glycosylation end product-specific receptor; Ager;
遺伝子 ID	177.0
SwissProt ID	Q15109
免疫原	ヒト RAGE の合成ペプチド

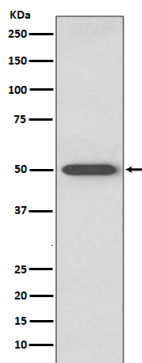
背景

終末糖化産物 (AGE) 受容体は、免疫グロブリン (Ig) スーパーファミリーに属します。終末糖化産物 (AGE) の相互作用を媒介します。AGE が RAGE に結合すると、細胞酸化ストレスが誘導され、転写因子 NF κ B が活性化されます。酸化ストレスの誘導により、p21 ras と MAP キナーゼを介した細胞内カスケードが活性化され、転写が活性化されることが示唆されています。終末糖化産物 (AGE) の相互作用を媒介します。これらは、加齢に伴い血管組織に蓄積し、糖尿病ではその蓄積速度が加速する、酵素反応によって糖化されたタンパク質です。アテローム性動脈硬化症などの疾患、特に糖尿病の合併症における急性および慢性の血管炎症の媒介因子として作用します。AGE/RAGE シグナル伝達は、2 型糖尿病における TNF- α の産生/発現、酸化ストレス、および内皮機能不全の制御において重要な役割を果たします。内皮細胞、単核食細胞、およびリンパ球上の S100A12 との相互作用は、細胞活性化を誘発し、主要な炎症誘発性メディエーターの生成を引き起こします。心筋梗塞後の S100B との相互作用は、ERK1/2 および p53/TP53 シグナル伝達を活性化することにより、心筋細胞のアポトーシスに関与している可能性があります (類似性に基づく)。アミロイド β ペプチドの受容体。皮質ニューロンにおいて、アミロイド β ペプチド (ABPP) が細胞膜を介して細胞外から細胞内へ移行するのに寄与します。ABPP によって開始される RAGE シグナル伝達、特に p38 ミトゲン活性化プロテインキナーゼ (MAPK) の刺激は、ABPP を RAGE との複合体として神経細胞内腔へ輸送する輸送系を駆動する能力を有する。また、オリゴヌクレオチドにも結合することができる。

研究分野

神経科学

画像データ



マウス肺溶解物中の RAGE 発現のウェスタンブロット分析。